

# いのちと健康を守る活動

## 青少年の性教育、妊婦検診、安全な出産、新生児のケア —助産所開設のニース—

### 過去1年のPIHS対象地域の事例から

- ① パリンバン町の48歳の妊婦：伝統的産婆さんの介助を受けて10人目を出産の予定だったが、難産で、病院への搬送が必要な状態となった。しかし、輸送手段がなく(経済的に)、出産後の多量な出血により、新生児を含む10人の子どもを残して亡くなった。
- ② サランガニ湾内バルット島の37歳の妊婦：血圧測定などの妊婦検診を受けないまま自宅で出産に臨んだが、胎児が出る前に心臓発作が起きた。病院が遠く母親は間もなく息絶えた。お腹を蹴るなどの反応があった胎児の心音も20分後に途絶えた。
- ③ パリンバン町バロンギス地区の14歳の妊婦：妊娠7か月でマラリアに罹患。病院に行く経費がなく、手遅れで胎児とともに死亡した。

### 保健省の通達に応じて続けたPIHSの母子保健活動

フィリピン保健省は、2008年に「妊産婦、新生児、幼児の健康と栄養改善に関する通達(MNCHN)」を出しましたが、ムスリムの村では、行政サービスが届かない地域も多く、私たちは医療支援の一環として、PIHSとともにヘルス組合、保健ボランティアの育成、青少年対象の性教育、妊婦検診、母子保健研修、栄養指導、給食支援などの事業を実施しています。

ヘルス組合活動継続のための地区ごとの自主財源事業は、バニグ編み、薬草入り石鹸、耕運機貸し出し事業など、少しずつ軌道にのってきました。

一方で、妊娠・出産に伴うリスクはまだ大きく、(左欄の事例)、地区別ヘルス組合や保健ボランティアの活動を補完するものとして、85号でもふれたように、助産師、看護師などの医療専門家が常駐する助産所開設計画を進めています。

ジェネラルサントス市郊外ファティマにあるウファ研修所の改修費他、保険診療により採算が取れるまでに必要な支援は、各種医療器材・医薬品、人件費、交通費など、最低約100万円と試算しています。

これは2002年以来続けてきたPIHSとの協働事業の集大成として、現地とともに育てていく形が良いと考えていて、短期に成果を示す必要がある助成金を充当するより、「助産所開設基金」などの形で、資金面の準備を進めたいと思っています。

基金への協力依頼は、次号87号やホームページを通じて後日開始させていただきます。その折はよろしくお願いいたします。

参考：妊産婦死亡率 10万人当たり：日本 3.4人(2013年・出典：ウイキペディア) フィリピン 400人(2013年・出典：国際統計格付センター)。なお、PIHS対象地域パリンバン町については、妊娠可能年齢層の女性の死因の14%が、妊娠・出産時のものという数字はありますが、妊産婦死亡率については現時点で情報を入手できていません。

PIHSは各村での研修、給食、ハーブ薬作り等、あらゆる活動の機会をとらえて、妊婦や新生児の診察・相談に対応してきました。



臨月の妊婦検診



妊婦検診：血圧測定



新生児の臍の緒ケア

6月訪問時、ウファでの研修に参加し、妊婦体操をする清水さん(左端、P7 寄稿文の筆者)。このスペースは、助産所計画では、産後回復室になる予定という。



### —CMIPの医療・保健事業から—

ジョジョさんが退任したCMIP地域の医療・保健活動のうち、アトモロックでは教師たちと母親クラブが核となって、トイレ普及、歯磨き励行、薬草活用、野菜作り推進を継続することになっていますが、中心的役割を果たしていたエルナ先生が体調を崩して入院したため、この2、3か月は報告できるような成果を上げていません。

一方で、事務局スタッフに委託している奨学生の健康管理、病気への対応は、まだ幸い、重篤なケースはなく、医療費も使われていないようです。不潔な下宿住まいで皮膚病が悪化、成績不振で中退となった昨年のカレッジ生ジェネヴィエヴのようなケースが起きないように、寮生の健康管理を改めてCMIPに依頼しました。